

# 令和3年度 地域力パワーアップ大会・交流会

**日時** 令和3年11月20日（土）10時00分～12時00分

**場所** 松山市青少年センター3階 大ホール

**主催** 松山市（まちづくり推進課）

## 出席者

松山市長 野志 克仁、  
坂の上の雲まちづくり部長 吉田 健二、  
副部長 八塚 健、副部長兼まちづくり推進課長 杉村 幸紀  
松山市コミュニティ・アドバイザー 讃岐 幸治 氏  
若松 進一 氏  
前田 眞 氏

参加者 64名

## 次第

挨拶

松山市コミュニティ・アドバイザー紹介

事例発表

- ・聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部 学生ボランティアセンター  
「学生ボランティアセンターの歩み」
- ・久枝地区まちづくり協議会  
「空き家を利活用した住民交流施設“ひなた”の設置」
- ・五明地区まちづくり協議会  
「収穫祭」

質疑応答・講評

## 備考

新型コロナウイルス感染症対策のため、事前申込制でまちづくり協議会や市民活動団体の関係者から参加者を募集。まちづくり交流会と併せて開催。

## 内容

1. 挨拶 松山市長 野志 克仁
2. 松山市コミュニティ・アドバイザーの紹介
3. 事例発表



## ◆聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部 学生ボランティアセンター 学生ボランティアセンターの歩み

- ・学外から寄せられるボランティア依頼の重複を避け、対応しきれない状況を改善するために1998年に学生ボランティアセンター設立。「福祉系サークルをつなぐ」、「ボランティア団体や機関などからの情報を学生につなぐ」、「イベント等で大学全体のボランティア活動を活性化する」ことを目的として、設立した。
- ・大学の学生支援課に様々なボランティアの情報や学生ボランティアの派遣依頼が届く。その依頼をボランティアセンターが全学生向けの周知情報にまとめ、まとめた情報を学生支援課から全学生個人にインターネット利用システムで配信している。
- ・2003年からボランティアウィークと称して、7月7日の七夕に合わせて1週間にわたり学内でイベントを開催、ウィークの最終日には集大成として一般公開のボランティアフェスタを開催。スクールモットー「Charity for Your Neighbours」(あなたの隣人を大切に)の精神の実践や学内外において地域福祉に対する意識を高めることをねらいとしている。ボランティアセンターに所属していない学生や教職員、高校生のボランティア、地域の店舗や福祉施設、ボランティア団体にも協力していただきながら実施している。
- ・先進国で販売する健康食の代金の一部を発展途上国の給食支援に充てる国際貢献活動であるTFT活動に学内で取り組んでいる。また、この活動を学生に知ってもらうため掲示板を作ったり、全学生個人にインターネット利用システムで配信したりしている。
- ・風早活性化協議会交流促進部会に所属しており、北条地域のイベントなどに参加したり、学生ボランティアとして関わっている。
- ・松山市社会福祉協議会とも連携し、月1回地域福祉部地域支援課の方とミーティングを実施。ボランティア情報の提供や共有をしている。それにより、街頭募金や災害ボランティア養成講座、文化の森福祉祭り、若年層ボランティアリーダー研修などのボランティア活動に参加することができた。
- ・2015年1月に松山市社会福祉協議会と聖カタリナ大学が「災害時におけるボランティア活動に関する協定」を締結した。
- ・2018、2019年、西日本豪雨災害のときに土砂の運搬作業などのボランティア活動を実施。防災訓練にも積極的に参加していて、ボランティアの受け入れ訓練、福祉的ニーズを要する方の避難方法の確認などを行い、防災の意識を高めている。
- ・自然災害に対して皆で助け合って守るため



に、今できることを考えていきたい。

- 松山市駅キャンパス内のサークルである学生赤十字奉仕団と協同し毎月第2・4土曜日に大街道献血ルームの前で献血への協力の呼びかけを実施している。
- ボランティアを通して、たくさんの人と出会い、新しいつながりを作ることができた。より多くの学生にボランティア活動に興味や関心を持ってもらえるように、これからも情報発信をしていきたい。
- コロナ禍で、ボランティア活動を中止していたが、10月27日からボランティア派遣依頼の受付を再開している。感染防止対策を行い、様々なボランティア活動に取り組んでいきたい。
- 先輩たちからのボランティアの思いを受け継ぎ、後輩に引き継いでいきたい。

#### ◆久枝地区まちづくり協議会

##### 空き家を利活用した住民交流施設“ひなた”の設置

- 平成30年2月14日に久枝地区まちづくり協議会が発足。
- 久枝支所会議室の一面を借用し事務所としたが、手狭であり使用時間の制約もあるため住民の交流や施策が自由に展開できないことに悩んでいた。
- 国の「空き家再生等推進事業」による助成制度があることを知る。
- 空き家対策を進める松山市住宅課が窓口となり、空き家を地域コミュニティ維持などに活用するための交流拠点として整備する取組に、認定まちづくり協議会である久枝地区まちづくり協議会がモデル事業として取り組むことになった。
- 補助対象経費のうち国から1/3、住宅課から1/3、まちづくり推進課から1/6の助成を受け、残り1/6を久枝まち協が負担し、空き家を改修した。
- 整備した交流施設は10年以上継続使用する必要があった。また、用途地域が低層住宅専用地域では、交流施設として使用できないなどの制約があり、条件を満たして借りられる空き家を地域内で探した。
- 空き家が見つかり所有者にこの事業を説明し、賃貸交渉を経て契約を締結。その後リフォーム工事を業者に発注、まち協役員総出で庭木を伐採した結果、車を4台停められる駐車場も整備できた。
- リフォームは、1階部分をワンフロア化・バリアフリー化、流し台もIHにすることなどを最優先にした結果、費用節減のため2階は手を付けていない。
- 整備した交流施設を「ひなた」と名付け、お客様第1号で潮見まち協がお祝いにかかけつけ、机などの備品を提供していただいた。冷蔵庫やカーテンなどの備品も役員



からいただいた。

- ・三津浜・興居島・立岩地区まちづくり協議会の役員を招き、見学会を行った。
- ・現在、地域住民に部屋の貸し出しを行っており、会議や地域行事の準備など交流の場となっている。「ひなた」の見学をしたい地区があれば、久枝まち協まで連絡を。

## ◆五明地区まちづくり協議会

### 収穫祭

- ・「収穫祭」を毎月第4土曜日9～15時に佛性寺前広場で実施している。
- ・五明を知って、来てもらい、住んでもらうことを最終目標に「収穫祭」を始めた。
- ・五明の地域課題は、人口減少や少子高齢化である。今年10月1日時点の住民基本台帳登録者数によると五明地区の65歳以上の人口は約48%、14歳以下の人口は約5.5%となっていて、平成23年度と比較すると高齢者の割合が増え、子どもの割合が減っている状況である。少子高齢化を解決するには、地区外から五明に住んでもらう人を増やすしかないと考えた。
- ・五明地区の良さは、自然豊かなことと地域コミュニティが充実していること。
- ・当日は、五明まち協が所有するキッチンカー（ファイブスター号）が出店している。地元で採れた猪の肉を使ったしし肉うどんやしし肉カレー、藤稔のソースをかけたソフトクリーム、壺で焼いた焼芋など、季節に応じたメニューを提供している。キッチンカーの出店希望があれば、五明まち協まで連絡を。
- ・五明まち協は、古民家を改修した「ふれあいの館」という施設を整備しており、そこで育った作家の陶芸作品を収穫祭で販売し、陶芸体験のスペースも用意している。
- ・作家も自分の作った陶芸作品を買った人と交流することで創作意欲が湧いている。
- ・今後販売する予定である五明大師堂焼や伊予五明土人形はいずれ五明地区の特産品になればいいと思っている。
- ・他にも、地域で育てた野菜や家から持ち寄った余剰品などの販売七夕飾りや的当て、ひもくじなど体験して楽しめるコーナーの設置、佛性寺敷地内でコーヒーや手作りのお菓子をいただける「こもれびカフェ」など来場者に楽しんでもらえるよう工夫をしながら実施している。
- ・収穫祭以外にも五明まち協のPRに力を入れていて、地域の人々の力を借りて作った切





手シート、五明の歴史をまとめた地誌「五明の里」を制作したりしている。

- ・今月も11月27日に開催し、12月25日は野外活動センターで実施予定。五明に足を運んでみてほしい。

#### 4. アドバイザーの講評

##### 【讃岐 幸治】

- ・古民家が公民家（地域の様々な人が気軽に集まることができる場所）になっていけばいいなど常々思っていた。
- ・久枝地区まちづくり協議会は、空き家を公に使っていて感心した。「収穫祭」は、持ち寄りやおすそ分け文化の良い例だと思う。
- ・公民家などで地域の皆さんが色々な物を持ち寄って楽しめる場になっていけばいい。



##### 【若松 進一】

- ・マスクをして笑顔が見えない生活が続くが、今回の発表で温もりを感じた。
- ・若者の地域参加は非常に重要なこと。空き家問題や若者がいないなどの問題はあるが、知恵を出せば地域が良くなっていく。
- ・議員や行政に頼るのではなく、地域の力が必要だ。皆で知恵を出せば、空き家活用など良い方向へ進んでいく。
- ・本日は、少し地域力がパワーアップしたのではないだろうか。



##### 【前田 眞】

- ・まちづくり協議会が設立し始めたころと比べると、SNSも活用しながら情報発信をしており、大きく飛躍している。
- ・地域の中に小さな拠点が必要だと改めて感じた。空間があると、人材や知恵が集まってくる。
- ・まちづくり協議会を設立することで、できることが広がると思う。まちづくり協議会未設立地区も色々な機会が広がるようチャレンジをしてみしてほしい。皆で豊かな良い暮らしになるように取り組んでいきましょう。

